

フロムワンとお取引頂きましたユーザーさまにお届けするニュースレター。

(有)フロムワン

「1から」通信

発行部数

250部

平成21年1月号(14号)

川口市東川口1-16-6-2F

TEL 048-291-2240

FAX 048-291-2242

発刊者 山本 達也

といよいよ二〇〇九年も幕をあげました。お世話になります。(有)フロムワン山本です。今年も宜しくお願いいたします。皆さんはどんな年末を過ごされたでしょうか？ 帰省された方、旅行に行かれた方、ずっとお仕事だった方、様々な過ごし方があったことと思います。私はほとんど寝正月。コタツにかじりついておりました。来年のお正月には、お腹が鏡餅になっていそうで怖い…。

とはいえ、元旦ぐらいはと、公園ではりきって凧揚げに挑戦しました。しかし、いい風があったにもかかわらず全然上手に揚がってくれません。最後には、ムキになって走り回ってしまい、ヘトヘト状態…。凧は揚がらず、私の息があがった元旦でした。(うまい！)

それでは、今回も『コタツが恋人』、(有)フロムワンの提供でお送りします。お付き合いです。



インターネットの話

そんなこともできるのか!?

<FAX編>

今やFAXも電話回線を使ってやりとりする従来の通信方法とは別に、インターネットを介して利用することができます。<FAX編>ではその便利な利用方法について紹介していきたいと思います。…が、その前にそもそもFAXとは、なぜ遠く離れた場所に手書きの文字や図がそのままの形で送れるのでしょうか？

私も今もって不思議です(謎)。ということでまずは今回その仕組みを見てみましょう!!

普段当たり前前に使っているFAX、今では家庭でも簡単に利用されています。
あまりにも当たり前前に使っていますが、実はスゴイんです！

原稿をFAXで送受信する時には、

1. 原稿を読み取り
2. 情報を送信
3. 情報を受信

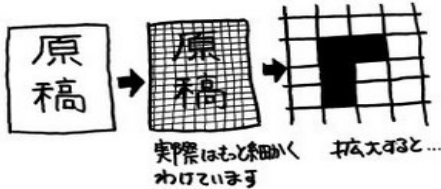
といった流れでFAXが送受信されますよね。こうやって書いてしまうと一見簡単そうなんですが、FAXって結構細かいことやってるんです。

● 原稿の読み取り

まずは原稿の読み取りですね。FAXの中にも原稿を読み取るスキャナが入っています。

原稿に光を当てて、その光の反射の仕方で原稿を読み取っているんですね。

通常A4サイズの前稿ですと、このイラストのように横におおよそ1600列、縦におおよそ1100行のマス目に分けて、文字が書かれているのか(黒色)、書かれていないのか(白色)を読み取ります。



こうやってA4の前稿を、な、な、なんと！約190万個ものマス目に分けることで、原稿に何が書かれているのかを読み取っているんです。

FAXってスゴイ！！

● データの圧縮

さて、約190万個のマス目の白・黒が読み取れると、今度はそれを電話回線を使って相手のFAXに送り届けるわけです。でも約190万個ものデータを送るのって大変ですよ。

数も多いし、とても重そうです。これではデータを受け取る方も一苦労ですよ。



ですからこのデータを圧縮して小さくしてから送信しているんです。圧縮というのは、たとえば下のような10個の情報を、左から7個が白、それ以外は黒の情報というように整理して

コンパクトにまとめてしまうことなんです。



そうすることで、送信する方も、受信する方も素早くできるようになる訳です。

どうですか？今FAXという一昔前のアナログチックなイメージがありますが、こんなにすごいことを毎日毎日、文句も言わずやってくれているんですネ。

FAXさんありがとう！！

次回は、FAXの仕組み、その2をお送りします。

おすすめ本



大和書房
著者 石原 明

年末お小遣いを捻出する為、BOOK OFF行きの本を整理して出てきました。改めてページをめくってみると、購入当時とは別の本のように気づきがたくさんあり、本棚にまいもどった一冊です。

「物事が成就する過程は、時間軸に沿ってその終盤に急激に曲線を描いて達成される」という内容がテーマです。

先ず、性格を変えることの重要性が述べられています。

性格、その人の〈考え方／行動〉は習慣によって形作られている。そして習慣を変えるには、強烈な体験をするか、意識して反復するしか方法がない、〈意識の深さ×反復〉と説きます。

人の物を奪うのではなく、自分が頑張ればいいのだということに気がついた時、人は初めてほっとして明るくなり、優しくなれる。そして、それまでの不安や恐れで見えなかったものが見えるようになり、考え方や性格が変わり、成功曲線が描かれはじめる——。

いわゆる全体的にはノウハウ本になると思いますが、毎日の仕事／生活を充実させる為にも多くの示唆を含んだ内容です。10年以上前の発刊ですが、最近では新入社員の研修用に配布する企業も多いそうです。

今回の一文、「**一流とは反復に耐えられること。**」

<編集後記>

昔、“正月”は一大イベントでした。

昔の人は、“事始め”といって12月13日から正月の準備を開始したそうです。

神様をお迎えするために、家の玄関に目印として門松を立て、鏡餅を飾り、供えられた餅やみかんは「年玉」と呼ばれ、これらを食べることで神様の生命力にあやかれると言われていたそうです。

昔の人々は自分たちの力だけではどうにもならないものがあることを知り抜いていたのでしょう。門松が玄関から無くなり、初詣はするものの、“神のおかげ”を忘れ、「年玉」は現金に変わってしまいました。

「不況のせいで…」テレビなどでよく聞かれる言葉です。

しかし、それを「不況」ではなく、強烈な「回帰現象」であるという人もいます。

もしその言葉を信じるなら、正直者がバカを見ない良い時代がやがてやってくる。という事かもしれない。

いずれにしろ、今年の年末にも「よい一年だった。」と言えるよう目の前の、1日1日を丁寧に、積み重ねてゆければと思います。

皆様にとって、素晴らしい一年のスタートでありますように……。

それでは、また。